



奈良県いじめモニタリングシステム『NIMS(ニムス)』(案)

『NIMS』とは

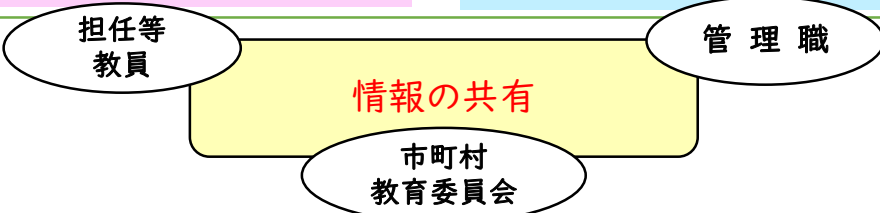
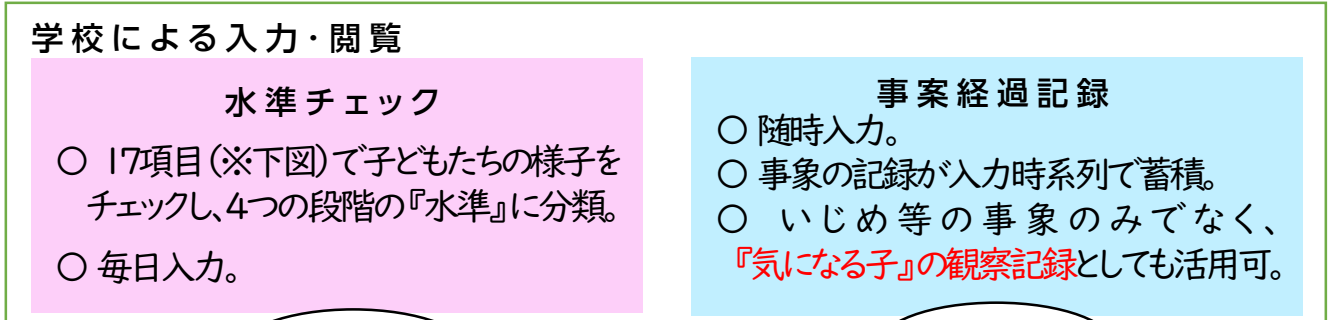
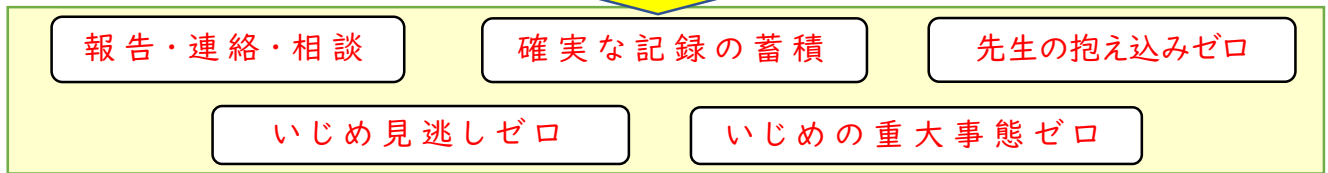
いじめの発見・対応が遅れ重大事態化しないように、

- ・ 日常の児童生徒の様子を観察することでいじめの『兆候』を積極的に認知
- ・ 事象対応の検証のために、継続的記録を見える化

し、入力情報を共有するシステムです。また、システムを活用することで、先生方の抱え込みをなくすとともに、チームとして対応・支援できるようにするものです。

『NIMS』活用による効果

- 情報共有による同僚性と学校全体の『気づく力』の向上
- いじめの『兆候』を含めた積極的認知の推進
- チームによる対応・支援



※いじめの『兆候』17項目(いじめ認知・対応フローチャートより)

【水準1】 いじめかもしれないが、その他の理由かも知れない						
下校時刻が近づくと、表情がさえないくなる	授業中にぼうっとすることがある	休み時間に自学級以外の児童と過ごすことが多い	昼食を食べ残すことが増えた	周囲の人の言動に過敏に反応する		
【水準2】 いじめの可能性が大きい						
登下校時、他の子の持ち物を持たされていることがある	持ち物や衣服が不自然に汚れていることがある	授業中におどおどした態度をとることがある	自分を卑下する(自虐的な)言動が見られる	休み時間に1人で過ごすことが多い	教科書等が破れている	登校を渋ることがある
【水準3】 いじめ重大事態の可能性が大きい						
授業中の発言を周囲に冷やかされる	休み時間に職員室や保健室にいることが多い	靴や持ち物がなくなる	顔や身体にあざがある	持ち物等に落書きをされたり、壊されたりすることがある		